

田尻町、公益財団法人医食同源生薬研究財団 包括連携協定を締結

この度、大阪府泉南郡田尻町（町長：栗山美政、以下「田尻町」）と公益財団法人医食同源生薬研究財団（代表理事：米井嘉一、以下「財団」）は、「医食同源」の研究を主たる活動としている財団のリソースを活用し、「医食同源の観点を尊重した健康増進及び医療費の削減」を目指す包括連携協定を締結しました。

両者は、今後展開する「食」に関する取組みにおいて、連携して町民の健康データの分析・解析を行い、健康効果の実証を進めていく予定です。

田尻町では、令和6年2月からスタートしている「健康づくりと食に関する特別高血圧予防プログラム」を始めとした町民の方への健康増進プロジェクトにおいて、お米の中でも特に栄養素と酵素の摂取が期待できる「亜糊粉層残存米」（あこふんそうざんぞんまい）を希望する町民へ提供し、その健康効果及び行動変容について後日調査・検証します。

将来的には、今回の調査研究によって得られたエビデンスを活用し、町内における「食」の取組みの拡大を図るとともに、「健康増進及び医療費の削減」といった全国共通の社会課題の解決に向け、社会実装のモデルケースとなるような研究結果の創出を目指してまいります。

（注）亜糊粉層残存米とは・・・加工玄米の一種。一般に良食味とされています。玄米には、特に栄養素と酵素が集中的に含まれている亜糊粉層（あこふんそう）という部分がありますが、玄米を精米に搗精する過程で、通常この亜糊粉層は削られてしまいます。亜糊粉層残存米は、特殊な搗精方法により亜糊粉層を残したお米で、全粒穀物とほぼ同等の栄養と機能が有ります。提供するお米は、地産地消を目指した地場産玄米（田尻町産及び泉州産）から特殊精米されたもので、すでに町立小・中学校の給食に提供されています。

【包括連携協定における連携事項】

- 町民の健康増進に関すること
- 田尻町の地域における健康課題の分析及び解析に関すること
- 田尻町のフィールドを活用した財団の研究推進等に関すること
- その他、本協定の目的を実現するために必要なこと

【参考】田尻町の取組み

田尻町では、「たじり8000人の大家族」のビジョンのもと、「健康ポイント事業」「転入・定住促進助成事業」「学校園給食費無償化」などに取り組み、人と人がつながる「住んでみたい」「住んで良かった」と感じていただけるまちづくりを進めてきました。特に学校給食については、子どもたちの健全な体づくりにつながるよう、地元産の野菜、旬の食材や伝統的な行事食など、

季節を感じる事ができる給食を手掛けております。

【参考】医食同源生薬研究財団の取組み

太古より生薬として重宝されてきた農作物や水産物によって人々を元気にし、年をとっても元気澁刺で働ける世に変える、いわゆる「医食同源」の社会実装による新たな社会の構築を目指して活動しています。

財団では、これまで

- ・加工玄米摂取により、健康状態の改善や疾病罹患率の減少に伴う公的医療費の減少を実証
 - ・加工玄米摂取による園児の新型コロナウイルス感染症罹患割合の低減を示唆
- など、食が及ぼす健康効果について科学的且つ実証的に示してまいりました。

当財団が地方自治体とこのような包括連携協定を締結するのは、大阪府泉大津市、長野県南箕輪村、島根県安来市に続き、これが4例目です。

お問い合わせ先

○公益財団法人医食同源生薬研究財団 事務局 西山 ☎03-4334-8868